

第6回ようざん事例発表会

## 「事業所自慢」



平成26年11月17日

### 第6回ようざん事例発表会 その3

- ケアサポートセンターようざん飯塚の自慢は『畑』  
ケアサポートセンターようざん飯塚 伊藤 祐毅 p.2
- NO SMILE NO LIFE 楽しくなければ DAI2 ぢゃないっつ！！！！(-)-☆  
スーパーデイようざん飯塚第2 山田知世 p.5
- ～寄り添える時間～  
デイサービスプランドールようざん 神田良江 p.7
- 「拒否なんてなんのその！」  
スーパーデイようざん 赤尾 真由美 p.10
- おやつの味わい方「ようざん風」  
ケアサポートセンターようざん 塚越 涼介 p.13
- ひとりひとりが主役になれる事業所  
スーパーデイようざん貝沢 岡田 秀朗 p.15
- 暖かみと笑顔が溢れる事業所を目指して  
スーパーデイようざん倉賀野 高橋 佐知 p.18
- PREMIUM～心満足足～  
ショートステイようざん 山口恵美 p.22
- 言葉を取り戻す日を願って  
グループホームようざん倉賀野 佐野史人 p.25
- 「エンタティナーな仲間たち」  
ケアサポートセンターようざん貝沢 小林 秀子 p.29

# ケアサポートセンターようざん飯塚の自慢は『畑』

ケアサポートようざん飯塚

発表者:伊藤 祐毅

## I. はじめに

ケアサポートセンターようざん飯塚よりご紹介させて頂く自慢は『畑』です。畑での野菜作りを中心としたレクリエーションに取り組んでいます。敷地内の緑地スペースの一角を利用し活用しています。今年の5月に、今までの倍のスペースに畑を拡張し、今まで以上に様々な種類の野菜を植えて、レクリエーションへの取り組みを強くしてきました。

その一部を事例発表の一つとして報告させていただきます。

## II. 結果

### 1) 初めに

夏から秋にかけての野菜収穫を視野に入れ、5月上旬より、キュウリ、ナス、枝豆、トウモロコシ等の種と苗を植えました。毎日の作業には利用者様を時間の許す限りお連れして一緒に水やり、草むしり等、気温の高くない時間を見計らっては、レクリエーションの一つの活動として手伝って頂きました。

### 2) 事例紹介

[氏名]T様

[年齢]91歳

[介護度]要介護度3

[既往歴] 平成26年4月、自宅にて転倒、左大腿部大転子骨折で入院。入院中、帰宅願望強く、看護師を殴ったり、リハビリを拒否する等があり、ご家族は入院が長引くと認知症が悪化してしまうのでは？と心配され、小規模利用となった。

[氏名]Y様

[年齢]75歳

[介護度]要介護度5

[既往歴] 脊柱管狭窄症、多系統委縮症の為、左上下肢の麻痺、拘縮あり。右側は健常であり、車イス自力操作、立位保持いずれも行えるが、やや不安定。社交的、外出好きであったが車イスの生活になってからは、様々な面で意欲が低下してきている。昔は温和で世話好きだったということだが、現在は短気になってしまったとご家族より。

### 3) アセスメント

#### 1. T様

帰宅願望強く、また介助やリハビリに対する拒否等もご自宅から病院、小規模へと環境が変化していったことで漠然とした不安を感じ始めたと考えられます。

また、ご自宅ではご家族が常に傍にいたということがあり、安心感を与える人がいないという事も帰宅願望が強い要因であると推察できます。

#### 2. Y様

自身の身体の状態はY様にとって大きな喪失であったと考えられます。その為、様々な面での意欲の低下に繋がっていったと推察出来ます。

元々、社交的、外出好きであったということと、世話好きだったという性格からレクリエーション等の活動を通して QOL 向上を目指して行きたいです。

### 4) 実施の結果

#### 1. T様

畑での野菜の成長を直に見たり、触れたり、また、出来た野菜を食べながら他の利用者様や職員と交流していききました。

少しずつですが、表情が明るくなり、笑顔が多くなってきました。

日中、帰宅願望の訴え、また、介助に対する拒否、暴言、暴力等も減少してきました。

#### 2. Y様

元々、畑仕事の経験が過去にあったと、Y様自身から笑顔でお話があり、Y様から「今日は、畑は行くかい？」や「畑行かないかい？」と職員へ話しかけられてきました。その際の表情は明るく、また、野菜に対する自身の経験からくるアドバイスを話される時は、真剣で、なんとか自分の出来る作業はしてみようという意欲が見られました。

#### 3. ケアサポートセンターようざん飯塚全体

日々、成長していく野菜を眺める利用者様は「大きくなってきたね。」と話しをし、他の利用者様との交流もよく見られ、どの方も笑顔が多く見られました。

### Ⅲ. 考察

#### 1) 園芸療法

園芸療法とは、植物あるいは植物に関連する様々な活動を通して、心や体に良い影響をもたらす療法です。障害を持った方や、心や体を病んだ方などのリハビリテーションとして、ま

た、セラピーとしての役割を持っています。

芽が出た、実がなった等の達成の喜びは、意欲増進へと繋がっていきます。畑を見に行く、収穫をするなどの作業は、機能訓練の役割を担い、活動の中で身体機能の維持、保進が計れます。そして、畑で採れた野菜を使って利用者様と一緒に料理をするなど、レクリエーション活動の幅が広がっていきます。

また、園芸療法ですが、認知症の方に良い影響を与えるのに効果的であると言われています。認知症の方が花や、野菜、土と触れ合うことにより、視覚、嗅覚、触覚、味覚に通じ、さらに情動が脳全体の活性化へと繋がります。視覚を刺激すると後頭葉が、全体のバランスをつかむ時は頭頂葉が、記憶をたどる時は側頭葉が働きます。

また、アルツハイマー型認知症の方は、主に頭頂葉の調子が悪くなり、頭頂葉の委縮が進むと失見当が進みますが、園芸療法は見当識を補正しやすいと言われています。

## 2) ケアサポートセンターようざん飯塚では

全体的な結果から判断し、多くの利用者様が表情が明るくなり笑顔が多くなったと考えられます。また、野菜を通して利用者様と寄り添い、何かをするという職員の態度が利用者様の良い変化を促していったものと考えます。

『畑』を取り入れることで、QOL 向上に繋がる有効なレクリエーションであったといえます。

## IV. まとめ

ケアサポートセンターようざん飯塚では、利用者様全体の約 4 割の方が、アルツハイマー型認知症です。『畑』というのは、今現在のケアサポートセンターようざん飯塚にとって、とても合っている自慢だと言えます。

また、この『畑』を通して他の事業所の方達と交流していけたら、おもしろいのではないかと思います。

畑作業をしていくと、複数の利用者様より「こら辺は、ずっと向こうまで畑や田んぼだったんだよ。」とお話を伺いました。そして、利用者様同士で畑を眺めながら、昔の思い出話をされていました。そんな穏やかな時間が流れていたことがとても印象に残っています。ケアサポートセンターようざん飯塚の自慢です。

# NO SMILE NO LIFE

## 楽しくなければ DAI2 ぢゃないっつ！！！！(^\_-)-☆

スーパーデイようざん飯塚第2

発表者:山田知世

### <はじめに>

スーパーデイようざん飯塚第2がオープンして三年目に突入しました。そんなスーパーデイようざん飯塚第2では美人1名、他7名のスタッフで毎日ケアに勤しんでおります。

今回は美人の山田が代表してスーパーデイようざん飯塚第2の良いところを紹介していきます。

### <良いところ紹介>

今回、事業所自慢ということで、スーパーデイようざん飯塚第2の良いところはどこだろうと考えてみました。そう思った時にスーパーデイようざん飯塚第2の良いところを一番知っているのは利用者様だと思いました。そこでインタビューをしてみました。

#### ・良いところ①

それではひとつめのインタビューをご覧ください。

動画の会話

スタッフ:スーパーデイようざん飯塚第2の良いところはどこですか？

利用者:明るく楽しく元気がいいところです。近所のお友達とお話しているかのように楽しいところです。

このインタビューでも言われていたように、皆様いつも明るく楽しく元気よく過ごされていらっしゃいます。ここは飯塚周辺の利用者様が多く、皆様利用前からの顔なじみで地元話で盛り上がっています。そのため自然と町の集会所に集まっているかのような雰囲気になるのです。

もちろんご近所さんではない方もこの雰囲気に包まれていくのです。皆様お茶を飲みながら話をする時間を楽しみにしていらっしゃるようです。

#### ・良いところ②

次のインタビューをご覧ください。

動画の会話

スタッフ:それでは次の方にも聞いてみたいと思います。スーパーデイようざん飯塚第2の良いところはどこですか？

利用者:イベントがいっぱいで楽しいのよね。そういえばこの間、芸能人がきたのよね。

スーパーデイようざん飯塚第2の2つ目の良いところはイベントが沢山あることです。先日の祭りイベントでは、今話題のお笑い芸人(スタッフ仮装)が来て大いに盛り上がりました。他にも梨狩りやバーベキュー、ドライブ、おやつ作りなど充実したレクリエーションを行っています。レクリエーションの多さもさることながら、利用者様皆ノリが良く明るい方ばかりなのです。そのおかげで毎回イベントは大笑いの大成功！！！！帰りの車内でも「今日は楽しかったんね～」と互いに言い合い、笑いに溢れています。

#### ・良いところ③

最後のインタビューをご覧ください。

##### 動画の会話

スタッフ①:こちらのスタッフにも聞いてみましょう。スーパーデイようざん飯塚第2の良いところはどこですか？

スタッフ②:皆さん働き者で毎日本当に助かっているんですよ。

スタッフ①:それではそのVTRがあるのでどうぞ。

～家事援助風景の映像～

大半の利用者様がこのような家事援助を行う事が出来ます。女性の利用者様はもちろん、男性の利用者様も一緒にされています。しかも皆様、率先して行って下さっていて仕事を取り合いになることもしばしばです。

#### <おわりに>

まだまだ紹介しきれないのですが、スーパーデイようざん飯塚第2では利用者、スタッフ問わず楽しい毎日を送っております。最後に、そんな日常をご覧ください。

## ～寄り添える時間～

デイサービスブランドールようざん

発表者:神田良江

はじめに、

デイサービスブランドールようざんの紹介をしたいと思います。定員10名の職員5名の小規模デイサービスです。

- ・田中所長:ピュアな笑顔で利用者の方からモテモテです。
- ・藤田さん:いつもニコニコで、利用者様に寄り添っています。
- ・神田さん:デイのお母さんの存在です。とても頼りになります。
- ・脇田さん:礼儀正しく、とても優しく利用者様から人気者です。
- ・田子さん:まだ若いデイサービスの率先力です。未熟なのでたくさん勉強します。

個々に対応しゆっくり過ごせるというのが特徴で、ご利用になる利用者様はブランドールの方がほとんどですが外部からは数名の方にご利用いただいています。時には飯塚周辺をドライブ、おやつレクなどを行い、利用者様がゆっくり過ごせる空間づくりに取り組んでいます。ここで、今日は三名様の事例について発表したいと思います。

### (事例1)

|      |                    |
|------|--------------------|
| 名前   | 〇様                 |
| 年齢   | 76歳                |
| 性別   | 女性                 |
| 要介護度 | 1                  |
| 既往歴  | 糖尿病<br>高脂血症<br>うつ病 |
| 趣味   | ドライブ               |

〇様は最初、スーパーデイへ通所されていました。

11月頃、スーパーデイ→当デイサービスをお試しでご利用。ご利用当初、ネガティブ思考でした。ご利用が決まり、〇様から「つまらない」等の声も聞かれ、次第に時間を気にするようになってきてまい、時計を見ては「時間だ、帰るよ。」と時間にまで神経質に。食事でも、「私のまだ？早く出しても。」と言われ、食事を提供して忙しく10分程で食べ終わってしまう感じでした。外出しても、「つま



らない。「もう帰ろう。」と言うように。私達職員は話し合いO様にどのようにしたら楽しんでもらえるのかを考えました。時間を気にしてしまうO様に対して、おやつレクのお手伝い、季節の製作、洗濯物を干す畳むなど簡単な作業をして帰宅時間を迎えてもらおうという対応を始めました。

始めた当初、「えーなんで私がしなきゃいけないの？」「めんどうだよ。」という声がたくさん聞かれました。O様は「私めんどくさがりなんだよ。」と言うようになっていました。

日に日に変化が出てきて・・・仲の良い利用者様が出来たことで、精神的に落ち着いてきて、時間などを気にされることもなくなりました。

「私のご飯運んでくれるの最後でいいよ。」「私も手伝うよ。」など進んでしてくれるようになりました。外出まで一緒に出来るようになり外出しても「楽しかった！また来たい。」という声が聴けるようになりました。

#### (事例2)

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 名前   | N様                       |
| 年齢   | 80歳                      |
| 性別   | 男性                       |
| 要介護度 | 2                        |
| 既往歴  | 脳梗塞<br>脳血管性認知症<br>十二指腸潰瘍 |
| 趣味   | お酒落                      |

N様は当デイサービスに入るなり落ち着きが無く、扉を引っ張ったり、徘徊をしたりという状態でした。当初は、入浴にもひどく拒否があり。「今日はいいいよ。いいです。」

とホールへと戻ってしまうような状況でした。入浴の度に、脱衣所を見てもらうのさえ拒まれていました。ある時をきっかけに、脱衣所に入り、衣類を脱ぎ始め「いいの、ここに入って。」と職員に尋ね、「良いですよ。」とお答えすると、笑顔で入浴をされるようになりました。その後、拒否なく入浴されるようになり、デイに来所されると脱衣所に向われます。

デイサービスでのご様子は、扉の付近に人影が見えると、「開いてる？」と言いドアの近くに行きドアを「ガタガタ」させてみたり、無理やり開けようとする姿が見られます。職員がNさん、ホール行きませんか？と声を掛けるがドアの側を離れようとはしませんでした。何度も何度もドアを開けようと必死になっていました。「ダメ？出られないの？」「これは、ダメだ。」と表情は陰しく誘導困難でした。職員がN様に対しての決めた対応は・・・

近くに寄り添い話を傾聴し、時には気分転換に外に散歩に行く。N様はじゃんけんが好きなのでじゃんけんをするなどの対応をしました。

現在、デイの中での徘徊が少なくなり、笑顔が増え、歌を唄ったり、職員と会話をするとうれやうになるようになり、N様のできる事が増えてきました。時間が経ち帰宅時間までドアの近くに行きガタガタする事も無くなって今では帰りの際、「も一帰るん？」となごり惜しい表情が見られます。

(事例3)

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 名前   | Y様                      |
| 年齢   | 88歳                     |
| 性別   | 女性                      |
| 要介護度 | 1                       |
| 既往歴  | アルツハイマー型認知症<br>胃炎<br>腰痛 |
| 趣味   | お花のお世話<br>裁縫            |

Y様は以前ご主人と二人で生活をされていました。デイサービスの利用が決まりご自宅に迎えあがるも、職員を警戒してしまい、「家の事やらなきゃ。」「掃除が終わってないから」「今忙しいんだよ。」と忙しい様子が多く見られていました。今日は行けない、あんた(ご主人)だけ行きなよ。と突き放す言い方をされ、ご夫婦で利用・入浴されることは困難な状況でした。利用されても、「家のことが心配なんだよ。」「人が多いのは苦手」と話され落ち着きがなく、ドア付近に行き、「開けて」「出して欲しいんだけど。」「お風呂は毎日入ってるから」と言われることもあり。自宅に戻られる事が多かった。ご主人が亡くなり精神的に不安定になり、生活面の心配がある為、ブランドールへ入居になる。その後もデイサービスを利用され、以前拒否されていた入浴もスムーズにされるようになり、周りの利用者様と楽しく過ごされるようになり、食器洗い、花の水やり、洗濯干し、たたみを積極的に手伝って下さるようになり、以前では出来なかった外出や散歩も楽しく笑顔で出来るようになりました。「私、こんなに前は活発じゃなかったのに、楽しくて！」と話されるようになりました。

終わりに

今回の三名様の事例を通して、三名様が以前どの様に生活をされていたのか私達職員も三名様の事をより多く、親身になって知ることが出来ました。外出が出来るようになってよかった。と言う声が聴けるようになり、帰るのさえ名残惜しくなってしまうたり、以前とは違う自分になったと。たくさんの変化に築くことが出来、利用者様自身にも協力頂き、三名様の事例を発表して良かったと思っています。10月で一年を迎えたデイサービスブランドールようざんですが、5名の職員でもっと、利用者様が楽しんでもらえるような明るいデイサービスにしていきたいと思ひます。

周りの方たちと連携を取り合い、助け合いながらデイサービスを盛り上げていきたいと思ひます。

# 「拒否なんてなんのその！」

スーパーデイようざん

発表者: 赤尾 真由美

## はじめに

私達の勤めるスーパーデイようざんは、平成 19 年 4 月 1 日にオープンしました。ようざんで最初の認知症対応型通所介護事業所です。施設の回りは、車通りが少なく散歩ではゆっくりと田畑の作物や花々、遠くには浅間山を見ながら季節感を味わう事が出来ます。室内ホールからも白衣観音、信越線の電車、利用者様と一緒に作っている畑が見えてせまいホールでも圧迫感はなくゆったりとくつろげる空間となっています。

そんなスーパーデイようざんに私が2年前に入社した時、職員のチームワークの良さと利用者様に対する誠実さを目の当たりにし自分の家族にもここなら安心して任せられると思いました。現在では、私もスーパーデイようざんの一員として多くの利用者様に対して誠実な対応を心掛けています。

さて、本題の”事業所の自慢”についてですが、事前に職員に聞き取りを行った所、色々自慢したいところが挙がりました。今回紹介する事業所自慢は題して『～職員は演技派女優～』です！スーパーデイようざんでは演技派な職員が毎日活躍しています。連れ出し困難、入浴拒否、帰宅願望があるなどといった個性のある利用者様に対し、ある時は市の職員、ある時は看護師、ある時は女医、ある時は利用者様のご家族になり変わり演技を行います。

演技を行うことにより、利用者様のプライドを傷つけずに、ご家族の希望やご本人様の本当の気持ちを引き出して適切なケアを行います。利用者様が本音で「ありがとう」と言い良い表情で過ごして頂いている様子を見るととても充実した気持ちになり、仕事に対するモチベーションになっています。

そんな、ケアを行う毎日の中から特に印象深いエピソードを2つ紹介したいと思います。一つ目は、ヒザの状態を理由に、入浴を拒否されるA様のケース。二つ目に、デイサービスにいる事に不安を覚え、帰宅を訴え食事を拒否されるB様のケースです。一つ目の、ヒザの状態を理由に入浴を拒否されるA様のケースを紹介します。

## <利用者紹介>

A様(女性)

82歳 夫と二人暮らし

要介護度2 利用開始日 H26. 4月～ 利用週1回

A様は、連れ出し困難のうえ入浴拒否もありました。迎えに行っても「ヒザが、ダメなんです。血圧も高くして・・・。」とその日は布団から起き上がって下さりませんでした。

まずは、スーパーデイへ来てもらわなければいけません。

そこで要介護度1の旦那様も一緒にスーパーデイを利用していただくのはどうかとケアマネージャーと相談しお二人で利用できることとなりました。

2人での利用となってからは2人連れ添ってスーパーデイようざんへ出かけられるようになりました。また、初回の利用時、ご家族からは清潔面を心配されていて、入浴して欲しいとの要望がありました。事前に入浴へのお誘いについては、拒否があることは聞いていたため別の利用者様で効果のあった「体重を量りますのでこちらへ」と入浴ではないことを強調したお誘いをしました。しかし、移動の際に浴槽が見えると「入浴しなくて、大丈夫です。入ると体調が悪くなるから・・・」と表情は穏やかですがどのような声かけにも頑なに拒否が続きました。結局、その日は入浴出来ませんでした。次の利用時、職員が白衣を着て看護師を演じることにしました。

A様のヒザのケアの後を見計らい「足を薬の入ったお湯で温めましょう。」と言って脱衣所に案内し、「先に体重を量りますので服を脱いで頂けませんか？」と脱いで頂きました。体重を量り終えたあと「次は足を温めましょう、そのままどうぞ」と洗い場に誘導しました。体にお湯をかけながら足をマッサージするなど入浴ではなく医者から頼まれたということを強調した声かけを行いその日初めてシャワー浴をすることができました。また、次の利用では、なんとか浴槽へ入っていただくよう全国名湯の入浴剤を準備して「膝に良く効く入浴剤です。どれがいいですか？」とご本人に選んで頂くようにして、入浴して頂きました。その後も、小さい拒否はありましたが声かけや職員の演技で入浴して頂き、今では拒否が全くなくなり湯船の中では職員との話が止まらないほどです。

続いて2つ目のデイサービスにいる事に不安を覚え、帰宅を訴え食事を拒否されるB様のケースを紹介します。

<利用者紹介>

B様(男性)

73歳 奥様と2人暮らし

要介護度1 ご利用開始日 H26. 9月～ 利用週2回

以前は他のデイサービスを利用されていましたが、そこでは帰宅願望がとても強くドアをたたき「俺は帰るんだ！出せ！」と怒鳴っていたそうです。スーパーデイようざんの初日、迎えはスムーズに車に乗って下りました。ホール内にもスムーズに入る事が出来ました。職員間に「あれ？大丈夫なのかな・・・？」という思いがめぐりました。ところがしばらくすると出入り口を探し始め落ち着かなくなり「嫌だったのに、連れて来られたんだよ」と言い「もう帰らせてくれ・・・」と不穏になりました。まずは、何故帰りたいのかの理由を傾聴し職員が個別対応で寄り添い気持ちを落ち着かせました。その後、対策として、事前にB様は、ギターが趣味で学生時代から弾いていたことを聞いていたためギターを準備しておきました。「ギター弾けるんですね、よかったですら1曲弾いて下さい」と用意したギターをB様に見せて、手渡しました。

最初は「弾けないからダメ」と言われていましたが、ギターを手にとると自然と指が動きだし“星影の

ワルツ”や“二人は若い”などの曲を弾いて頂きました。ギターの色音がホール内に響き始めると他の利用者様が自然と歌を歌ってしまうほど盛り上がります。B 様もリクエストに何度も答えて下さりました。ところが、職員達がこれで一安心と思っていると、昼食時にまたもや問題が起きました。配膳をしているとB様が椅子から立ち上がりソファに移りました。職員が昼食の準備が出来た事をお知らせすると「食事はいらない」とその日は、全く召し上がりませんでした。次の利用の時も拒否でした。そこで名女優の登場です！受話器を手に取り「B 様の奥様ですか？いつもお世話になっております。」「はい、午後病院に行かれるのですね。お医者様から検査があり空腹状態では出来ないで必ず昼食を取ってから病院に来てほしいと言われたのですね。承知いたしました。お伝えします。」とB様に聞こえるように大きな声での一人演技、その後B様に対し、「先程奥様から連絡がありまして、昼食は食べたかどうか心配していましたよ。」「これから病院で検査があるそうなのでどうしても昼食を取って頂きたいそうです。」「少しでも召し上がって頂けませんか？」と声かけをするとしぶしぶでしたが席に着き完食されました。今でも、少し拒否がありますが、声かけにより席に着き食事を召し上がっています。また、カルタの読み手や他の利用者様と散歩に出かけるなど、帰る時間を忘れるほど楽しんでいます。家に着くと冗談が飛び出すそうです。スーパーデイ利用前の施設では、家に着くなりイライラした様子で「病院に行ってきた」と言っていたようですが、奥様が言うには全く表情が違い穏やかで「楽しいところへ行ってきたよ」と笑顔で話しているそうです。そして、スーパーデイに行く時のために自宅でギターの練習をはじめたそうです。奥様からは、「ようざんさんなら安心して預けられる」とありがたいお言葉をいただきました。

### 最後に

時間の関係もあり二つのケースしか紹介できませんでしたが、スーパーデイではいつでも利用者様のプライドを傷つけずにいかにして適切なケアを行うかを心掛けております。そのうえで必要な演技は、おまかせください。スーパーデイようざんの職員は明るくユニークな人ばかりで利用者様の笑顔も多く生き生きとした表情を見ることが出来ていると自負しております。これからも利用者様第一にとびっきりの笑顔になっていただくためにスーパーデーター丸となってどこにも負けないチームワークで山木所長のもと「拒否なんてなんのその！」でより良いケアを行っていきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

# おやつの味わい方「ようざん風」

ケアサポートセンターようざん

発表者:塚越 涼介

## 【はじめに】

今回の事例発表のお題で「ユニット自慢」と言われた際に、「はて…？自分たちの所で自慢できることがあるのだろうか？」と首をかしげてしまいました。

認知症の方や重介護の方も多く、何をしても「はっきりとした、反応を期待できない。」「参加出来る方がいない。」「…と決めつけていた自分たちがいる事にも気づきました。そんな折り、一人のスタッフが「私たちって、ママにおやつ作っていますよね！」と…

## 【まずはヒントを下さったお礼】

配食センターの本多所長が、四季折々のメニューを考えて頂く事で、利用様との会話の内容に広がりがでています。正月には、紅白かまぼこやなます、伊達巻でおせち気分を…。

桜の時期には、桜餅。お彼岸やお盆には、牡丹餅やおはぎ。暮れには、年越しそば等々。

いつものメニューに、一皿飾られるだけでも、それだけで会話の幅が広がります。ご利用者様も嬉しそうに召し上がっている姿は、いつも感謝しています。

## 【事例紹介】

「食べる事」は、誰でも生きる上での楽しみの上位を占めるのではないのでしょうか。

私たちも、季節や行事を感じて頂くお手伝いが出来ないか？と考えました。

「そうだ！おやつレクをしているじゃないか！」

私たちケアサポートセンターようざんでは、以前より「おやつレク」と称して、定期的に手作りのおやつを提供して来ました。ユニット内のレクチームで、メニューを考え、材料費も高額ならないように、材料を考えて準備をします。そんな話し合いをすることで、チームが出来上がっていく事も、チームケアとしての力を養う事にも役立っている。また、人生何事も経験は力です。スタッフに「元イタリアンレストランのシェフ」を始め、飲食店勤務の経験者がいます。おやつレクの内容は「雰囲気味わって頂くパターン」と「一緒に作る事を、楽しむパターン」があります。利用者様の笑顔が見たくて、行ってきた内容を自慢します。

### 《雰囲気を味わって頂くパターン》

- ・室内をほんのり暗くして、ジャズを流します。これから何が始まるのか？興味深々で皆さんが集まってきます。当日のメニューは…
- ・パスタの代わりに、そうめんを利用し「ソウメンがカッペローニ」
- ・クラッカーを利用し「クラッカーがラタテューユ」

若手の職員が、いつもの制服から変身！馬子にも衣装？

・バーテンダーに扮し、シェイカーを振って「ブルーキュアソようざん風」カクテルを…

実は、かき氷のシロップを利用しているんです。「バー」気分を味わって頂きました。次回は、女性スタッフも変身しましょうか？

《一緒につくる事を、楽しむパターン》

・ホットプレートで「お好み焼き」を作りました。材料の準備で、キャベツの下ごしらえ、粉を混ぜたりと、出来る事は利用者様と共に行い、ホットプレートで、焼きます。「材料を仕立て」「焼ける音を聞き」「香りを楽しみ」出来上りを想像しながら「食べる時を待つ」出来上がったものを口に運びながら、利用者様との会話も弾みます。

【その他】

今迄、作ってきたメニューをご覧ください。レシピファイルも作成し、誰でも作れるようにしておきます。「目で、鼻で、手で、口で…」提供される物口にするだけでなく、おやつ時間を「楽しみにできる時間」として頂きたいと考えています。その他にも、ようざんでは「おやつレク」の他にも月間内一週間を「お楽しみ入浴」とし、浴室を季節感が味わえるように飾り付け「民謡」や「懐メロ」「童謡」を流しながら、入浴を楽しんで頂いています。また、毎月「ようざんアルバム」を作って、利用者様との会話の種にしています。どの企画も、「おやつレク」同様、3年以上の継続をしています。

【そして、思う事】

「成せばなる。成さねばならぬ何事も…」時には、失敗もあるけれど『継続は力なり』と感じています。

# ひとりひとりが主役になれる事業所

スーパーデイようざん貝沢

発表者:岡田 秀朗

スーパーデイようざん貝沢では、レクリエーションやイベントの中で一人一人の過去の経験やその方の意見を積極的に取り入れて実践していくことを考えている。

今回はその一例を報告する。

<ケース1>

利用者様情報

|   |
|---|
| A 様 84歳   |
| 介護度5  |
| 既往歴 心房細動、高血圧症、脳幹部出血(右肩麻痺、言語障害)                                |
| 国鉄の職員として40年間仕事を行う。昭和天皇が来県した際、護衛列車の運転をしていた。退職後は、地域の区長を2期行っていた。 |

今回、国鉄の職員として40年間仕事をしていたとして、その方を電車に乗せてあげたらどうだろう？という話が職員からあり計画・実施する。

当日準備・・・

- ・勤務地は新前橋駅ということをご家族に確認する。
- ・スムーズに実施できるようにシフトの調整をし、ご家族への企画実施の概要をお話する。「そんなことやってくれるんですか！」と驚かれ、「よろしくお願いします」と承諾をいただく。(ツアー前日、写真を撮る際に着せてほしいということで奥様が選んだ素敵なジャケットと娘様が用意してくれた手編みの帽子を持参される。)
- ・車イスのため、事前に乗車・降車する新前橋駅と高崎駅におおよその時間などを連絡。車両への乗り降りの際のスロープを用意していただける。

当日の様子・・・

- ・前日は自主事業にて泊まりだったので、夕方本人に今回の企画の内容をお話してしまったせいか、夜間ほとんど眠れていなかったとの報告を受ける。
- ・ツアー中予想外に曇りがちな表情になる。新前橋駅では、「(昔と)変わった・・・」「もういいよ・・・」といった発言が見られる。
- ・高崎駅のフードコートで休憩していた際、休憩中のおやつを買いに出る。この時に奥様へのお土産を購入しようと声かけ、何にしようか店内を探していると「最中菓子」を買いたいとの訴えがある。奥様にお土産をお渡しすると、「このお菓子は昔、主人がよく買ってきてくれたんですよ」と涙ながらに話される。それを見ていたA様も一緒に涙をながしていた。



<考察とまとめ>

前日に企画を話してしまったという事で興奮されたのか、睡眠不足での実施ということになってしまった。また、予想外に曇りがちな表情を見せるなど、こちらの予想していた反応とは違う姿が見られ、必ずしもすべての利用者様が喜んで頂けるとは限らないことを思い知った。しかし、エスコートしてくれた駅員さんの動きの良さを同行した職員が「JRの職員さんはすごいですね！さすがです！」と話しかけると昔を思い出したのか、誇らしげな表情も見られた。

<ケース2>

利用者様情報

|  |
|--|
| B様 88歳   |
| 介護度1   |
| 既往歴 腰痛症、骨粗鬆症、糖尿病、高血圧症、難聴                         |
| 会社の設備会社の倉庫係として20年勤務。その後は土建会社で道路の舗装などの作業を7年行っていた。 |

カラオケ好きのB様。「カラオケやらねんかい？」とよく話されている。普通のカラオケならレクリエーションで出来るので、いっそのことカラオケと喫茶が同時に楽しめるカラオケバーを行って全員に楽しんでもらおう！と考えた。

当日準備・・・

- ・「バー」という設定なのでカクテルを提供したいと考える。そこで本格的にカクテル作りの経験があるという他事業所の職員に打診し、当日来てもらえないか相談する。
- ・外部ポスターなどで他事業所に参加の呼びかけ。
- ・一人で歌うのが恥ずかしい利用者様もいたため、職員と一緒に歌う、全員で歌うなど対応を考える。
- ・練習としてレクの中でカラオケを実施。その中でもカラオケが好きな利用者様は笑顔を見せてくれていた。

当日の様子・・・

- ・来所時よりB様は少し緊張した様子見られるも自身の番になると昔からよく歌っていた曲を堂々と歌い上げた。
- ・他利用者様もあらかじめ歌う曲を決めていたためスムーズに進行する事が出来た。

<考察とまとめ>

この企画において、利用者様ほぼ全員に笑顔で楽しんでもらうことができた。中でもB様は特に喜ばれ「本当にたのしかったよ」と満面の笑みで話されていた。今でもカラオケバーの話をする笑顔で「またやりてえなあ～」と話されている。

<最後に>

スーパーダイようざん貝沢では、利用者様が主役になれることを第一に考えている。利用者様から「〇〇がしたい」「〇〇に行きたい」という話があればとにかく職員全員で検討する。検討し、出来る限り実現させていく。そのためには、利用者様をよく知り、よく理解していかなければならないと考える。

これからも利用者様の希望を叶え、「今日は自分が主役」と感じられるサービスの提供をしていきたい。

# 暖かみと笑顔が溢れる事業所を目指して

スーパーデイようざん倉賀野

発表者:高橋 佐知

## 【はじめに】

スーパーデイようざん倉賀野は、平成26年3月1日にオープンしました。利用者様第一をモットーに、オープニングスタッフは、4人でスタートしました。

まだ日は浅いですが、日々試行錯誤しながら、利用者様お一人お一人を大切に、ゆったりとした時間を一緒に共有しています。まだまだ人数は少ないですが、個別対応の強みを最大限に生かせるケアを実践しています。まずは、これまでの歩みをご紹介します。

## 【室内の雰囲気作り】

まず初めに取り組んだことは、室内を暖かみのある雰囲気にしようと利用者様と製作活動に励みました。利用者様、職員ともに会話をしながら、楽しく作品作りを進めていきました。出来た作品は、玄関、壁面に賑やかに飾り付けしました。季節感に合わせた製作にも力を入れました。今では、暖かみのある室内になりました。職員・利用者様一丸になり沢山の製作が生まれました。これからも暖かみのある手作りの作品を作っていきます。

## 【個別対応の強み】

まだ人数が少ないので、他のどの事業所よりも、ゆったりと個別対応ができます。信頼関係を築くプロセスとして、じっくりと丁寧にお話を傾聴することで、大事にしています。常に一人一人に目が行き届き、ご本人の希望に合わせて、手厚いケアができます。一人一人のペースに合わせて、落ち着いた空間で安心して過ごすことができます。ゆっくりとコミュニケーションを図りながら、何気ない会話の中から、その利用者様の、故郷、趣味、家族、職歴、習慣など人生が沢山見えてきます。それをケアや個別レクリエーションのヒントにしています。すぐに、利用者様のニーズに合わせた個別レクリエーションが提供できることが強みになっています。

毎日の体操は集団ではデュアルタスク、頭頂葉レク、前頭葉レクを取り入れていますが、個別では、一人一人アセスメントを行ない、利用者様ごとに合った訓練メニューを組んでいます。訓練メニューには、ご本人が輝くこと・笑顔になること・トキメキを取り入れることで、様々な良い効果があります。

|         | A様                    | B様          | C様           | D様        |
|---------|-----------------------|-------------|--------------|-----------|
| 機能訓練    | 歩行訓練<br>可動域訓練<br>下肢筋力 | 線またぎ<br>太極拳 | 線またぎ<br>歩行訓練 | 下肢筋力      |
| 認知症進行予防 | 回想法(講義)               | 家事          | 外出<br>家事     | 絵画<br>家事  |
| トキメキ    | 歌<br>講義               | 太極拳<br>編み物  | 調理           | 絵画<br>編み物 |

機能訓練 —ADLや疾病を基に筋力低下訓練を行なっています。

認知症進行予防—認知症のタイプや進行度、ご本人の生活歴や性格に合った予防に取り組んでいます。(デュアルタスクなどはご本人に合わせて全員に行っています。)

トキメキ —ご本人が輝くこと。笑顔になること。

ここで、事例紹介をします。

## 事例1

### 利用者様 A様 男性 87歳 アルツハイマー型認知症

職歴の郵便局長という肩書を人一倍誇りに思っているA様。医師からは、重度のアルツハイマー型認知症の診断ですが、職歴の影響もあり、お話好きで、コミュニケーションの部分では支障がないことでした。以前利用していたデイでは、レクリエーションは嫌いで、強い拒否が見られていたそうです。ささいなことですぐに不穏気味になるとの事でした。

まだ利用者様が少なく静かな倉賀野の雰囲気合い、すぐ落ち着いて過ごすことができました。コミュニケーションメインで、A様に寄り添いじっくり会話をすることも個別レクリエーションの一つと重視して続けてきました。ご自身は今現在もまだ郵便局で働いていると思っている為、郵便局での仕事などを教えて下さることで、表情がドンドン生き生きしてきました。個別での対話でA様の興味、関心に沿い、自尊心を尊重しながら、関わった結果、職員との信頼関係が築けました。今では、A様から歌を歌ったり、拒否の見られたレクリエーションにも笑顔で参加されています。散歩が日課となり、下肢筋力運動も午前・午後の2回取り組んでいます。

またご本人より、倉賀野が好きとの発言が聞かれるようになりました。

## 事例2

### B様 女性 79歳 レビー小体型認知症。

利用当初、幻視があり、実行機能の低下が顕著にありました。その為、自信喪失されうつ傾向がある様子でした。日常生活訓練を兼ねて、配膳、洗濯物たたみ、洗濯物干し、テーブル拭き、そうじなど、主婦の顔になり、丁寧に行っています。毎回感謝の言葉を伝えると、それがハりに繋がり、今では日課になりました。

ご自分でできる範囲のことをご本人の負担がないように、継続した結果、自信を取り戻し、ご自宅でも進んで片付けをしてくれるようになったと嬉しい報告がありました。幻視も以前より減り、自発性が高くなりました。

また以前、大極拳と編み物の教室を開いていた経歴を最大源に活かしています。利用中職員に大極拳を教えて頂いたり、ゆっくりではありますが、一つ一つ丁寧に編み物をされています。

利用当初より、表情も明るく生き生きされています。ご家族も以前元気だった時の母に戻ったみたいで嬉しいと感謝のお言葉を頂きました。

またおしゃれが好きだったというB様。先月行われた倉賀野秋祭りで行われたファッションショーに参加され、最高の笑顔を引き出せました。

## 事例3

### C様 女性 79歳 パーキンソン病

利用当初は、幻視や被害妄想を強く聞かれ、気持ちが不安定な様子でした。C様のお話を精神的なケアを第一に考えました。不安に寄り添う、不安を取り除く為、ひたすら傾聴に努めました。その上で初めは外に出て日光を浴びることを目的とした散歩を行ないました。また、足浴やタクティールケアも行いながら、スキンシップを図りました。その結果、安心して、落ち着いて過ごせるようになりました。今現在は、精神的に安定してきたことで、パーキンソン症状改善の為、線またぎ等の訓練を行なっています。

畑作業が好きで、農家だったので、知識も豊富。畑作業を行う際、アドバイスや見守りを行ってくれました。作物の成長が楽しみになり、季節感を肌で感じ、作物や植物から季節の行事、食べ物のお話に繋がりました。

また料理レクでは、回想法に繋がり、うどん作りでは上手にうどんの機械を使い、素敵な表情を引き出せました。利用当初と比べて、体調も安定し、表情も明るくなり、何事にも意欲的になりました。

#### 事例4

##### D様 女性 74歳 アルツハイマー型認知症

馬鹿になった、もう死にたいが口癖のD様。感情失禁見られ、不安定でした。外に出ることが好きとのことで、散歩をしながら、D様の訴えやお話に静かに耳を傾けました。

お話から、ご本人の趣味の絵を描くこと、手先を使うことが好きとのことで編み物を始めてみると、すぐに効果が表れました。手を休めながら、マフラーを作ってくださいました。そして、息子さんからの希望であったタバコも禁煙にも成功しました。死にたいという悲観的な発言は減り、表情が明るくなり心身ともに健康になりました。

#### 最後に

事業所として歴史も浅く、まだ自慢出来る程誇れるようなことはありません。ですが、各スタッフが介護の仕事が好きだと、そのことだけは自信を持って言えます。そのスタッフの熱い気持ちが倉賀野の一番の自慢です。

「利用者様の笑顔が見たい」それが第一です。大切なのは、認知症のお一人お一人の利用者様に真剣に向き合い、受容と共感の姿勢を大切に、寄り添い続けることなのだと思います。そして、その利用者様に合った日々のケアを実践していくことだと思います。

今後も今回発表した取り組みを継続していくとともに、スーパーデイようざん倉賀野の特色が出せるように、職員一同邁進していきたいと思えます。また、各利用者様ごとのニーズをしっかりと見極める為の、専門職としてのスキルを磨き、チームケアの向上を図れるスーパーデイようざん倉賀野を確立していきます。今後のスーパーデイようざん倉賀野にご期待下さい。

# PREMIUM～心滿意足～

ショートステイようざん

発表者: 山口恵美

## ～start～

今まさに時代は変わろうとしている。

総務省がまとめた 10 月 15 日時点の人口推計で、65 歳以上の高齢者が過去最高の 3186 万人となり、初めて総人口の 25%に達した。団塊世代が続々と仲間入りし、4人に1人が高齢者という時代を迎えた。時代だけに留まらず、人々のニーズも急速に変化していく中、今まで通りの“普通の福祉(介護)”では顧客満足獲得どころか運営継続も危ないのが現実である。ショートステイようざんが平成 21 年 11 月 1 日にオープンし、ちょうど 5 年が経過する。5 年間走り続けた中で「**団塊の世代が求めるサービスとは一体何か?**」それこそが時代を生き抜く最大のヒント。

今回時代が求める新たなサービスモデルを追求し続けた 5 年間の集大成(進化)をここに報告する。

## ようざん Café

毎月 1 度オープンし、心落ち着く Café Room で極上自家製スイーツをドリンクと共にゆっくりと楽しんで頂くサービス。開店時間は 14:00～15:30 となっており、毎回多くの利用者様が来店され、お友達やご家族様と楽しく時間を過ごして頂いております。

## ナイトバスサービス

日中(9:00～17:00)にこだわらず、毎週 2 回程度夜間(18:30～20:30)お好きな時間で入浴できるサービスです。日中とは異なり、そこはライトアップされ、お香やミュージック、植物に囲まれ、優雅に入浴することができます。また、6 種類のシャンプー・コンディショナーや 4 種類のボディシャンプーが用意されており、入浴剤等のアメニティーも充実しています。さらにこのサービスを利用することで認知症の不眠傾向の方で約 7 割以上が良く眠れるようになり、起床回数においても以前と比較しても平均 70%減少という結果(4ヶ月間統計)も出ています。

## 玄関・内装

まさに玄関は事業所の顔といえる場所です。来所されたお客様はまずこの場所を見て通過していきます。毎日 2 回お香を焚き、常にリラックス効果のあるミュージックが流れています。利用者・ご家族・ケアマネージャー・業者・他事業所のスタッフ等、毎日多くの方々が来所され、必ずと言っていいほど内部の環境を褒めて頂きます。この環境や雰囲気ですんなり事業所かが検討ついたと言って契約した方々も何人もいるほどです。ポイントは施設間を絶対に出さない事とお客様の目を楽しま

せることが重要です。

### ***Studio youzan***

お好きな着物をレンタルし、ヘアメイク、着付け、写真撮影を行い、出来上がった写真をお好きなフレームに入れてプレゼントするサービスです。毎月1度オープンし、3～4名の事前予約制です。ご本人はもちろんですが、ご家族から絶大な人気があり新規利用の際には必ず予約が入るサービスです。中には亡くなった方の慰霊に使用されたご家族も何人もいました。人はいつまでも美しく素敵になることを心から望んでいるのだと感じています。

### **麺の日**

毎月11日に屋台として12:00頃に出店し、お好きな麺と出汁を選んで召し上がることができるサービスです。「自分の食べたい麺を好きなだけ選んで頂く」という選択の自由と群馬県のお麦文化を象徴した本物志向の麺専門店です。現在、麺の日を目的に利用されるリピーターも増えています。

### **味噌の日**

毎月30日に屋台として18:00頃に出店し、約10種類の中から好きな具材と、赤だし・白だしを選んで頂き自分だけのオリジナル高級味噌汁を堪能して頂けるというサービスです。

具材や味噌は高級にこだわり提供している味噌汁専門店です。ここでしか味わえない自分だけの最高の一杯をどうぞ召し上がれ。

### **フルーツの日 ～vitamin parlor～**

毎月22日に開催し、旬の生フルーツをお客様の前でさばき、ミキサーや絞り機で様々な生ジュースを提供しようというサービスです。もちろん剥きたてのフルーツをそのまま食べて頂いても結構です。とびっきり美味しいのはもちろんですが、多くの食物繊維と水分補給を同時に行えるため便秘解消にも効果を発揮しています。またジュースにすることで嚥下障害のある方にも楽しんで頂けるサービスとなっています。

### **スイートルームサービス**

契約等のサービス利用前、またはご家族様・ご本人様より随時ご依頼があった際に、スタンダードタイプからスイートタイプへ変更できるサービスです。多くの客様から喜びの声を頂いています。特に女性に好評なサービスです。また新規利用の初日の方にはスイートルームをご用意させて頂きサプライズを楽しんで頂いています。

### **BISTRO 鷹山**

毎月1回夜オープンし、完全予約制で限定4名様に対し和食と洋食2種類のディナーコースを楽しんで頂くサービスです。各食事や季節に合わせた個室を用意し、ミュージックが流れ、落ち着いた



ある優雅な空間で特別なおもてなしを受けながら、ゆっくりと最高級の食事を楽しんで頂けます。利用者様同士だけでなく、誕生日のお祝いやご家族との特別な食事会などにも活用して頂いています。

### **Picture ～広報技術～**

ショートステイようざんの広報チームが毎月のイベントや外出、サービスを全てピクチャー加工しポスターやパンフレットとして掲載しています。利用者やご家族、来所者全員に対し、気に入って頂いたものがあればプレゼントさせて頂いています。これは最高の広報活動であり、来所者がショートステイようざんの良さを感じて頂ける一番のサービスと言えます。

### **おもてなし力 ～礼儀正しさ～**

株式会社メモリードから専門講師をお招きし、“接客マナートレーニング講習”を受けました。そのノウハウを基に毎日、朝・夕 2 回「挨拶・お辞儀・言葉使い」のトレーニングを欠かさず行っています。このトレーニングを始めて1年8か月が経ちますが、この反復練習こそがショートステイようざんのサービスの質を支えていると言っても過言ではありません。他社と比較して見学に来所された方は皆この良さを評価し、契約率は 90% (8ヶ月間実績集計) を超えます。中には見学しその場で契約をしたがる方もいるほどです。まさに人は“人”でのみ評価するのかもしれませんが。

### **～Last～**

これはもはや自慢ではなく、スタンダードな福祉の在り方ではないだろうか？

現代福祉の当たり前は、もはや当たり前ではない・・・

そう感じるのは時代(人)が変化しているから・・・

そして時代は現代福祉という当たり前を見放し、忘れていくことだろう・・・

普通の福祉(介護)はもう手遅れになります。

時代は待っていてくれません。

そして時代はいよいよ“喜び”と“感動”、そして“高級(PREMIUM)”を求めてくるだろう。

今私達を感じなければならないことは

時代が**変わっていく**ことではなく、**時代を変えていく**ということ。

「時代には終わりが無い。だから私達のサービスにも終わりは無い。」

もしそう考えられたのなら、それこそが **「PREMIUM」**

# 言葉を取り戻す日を願って

グループホームようざん倉賀野

発表者:佐野史人

はじめに

T様が言葉を失ってから6年。

職員の中には誰もT様の声を聴いた事がある人はいません。

「T様に言葉を取り戻してもらいたい。」これは職員共通の願いです。

T様に言葉を取り戻して頂くにはどうすればよいか。グループホームようざん倉賀野の取り組み、T様の状態の変化を発表します。

利用者様紹介

T様 62才 女性

平成15年 慢性腎不全

平成16年 透析開始

平成20年 前頭葉型認知症 失語症発症

平成22年 交通事故により骨盤骨折 K病院に入院

平成23年 退院 他事業所のショートステイ利用

平成24年6月 グループホームようざん倉賀野に入所される

要介護度3(その後、5に変更)

家族はご主人、息子、娘の4人家族。物静かな性格で、衣料品店に勤め、家の庭の草花の世話が好きな方でした。

入居後の様子

フロア、居室を歩き回り、目についた小さな物、ゴミを何でも口に入れてしまう。衣服やタオル、カーテン、布団といった手近な物を齧る、食事の際、一気に口に入れてむせたりする為、職員が常に側について食事介助する、また、他の方の食事・水分に手を出され、食べようとする、といった行為が頻回にありました。

日常生活動作は全くといっていい程出来ず、失語症の為、ペンを持って頂いても意味のある単語を書く事が出来ませんでした。

取り組み

まず、T様に対し、どの様なアプローチ、治療が有効なのか、それを探す事から始めました。

歌唱レク、文字や絵を描いて頂く、といった事には全く関心を持って頂けず、アニマルセラピーで

はやってきた犬を嘔もうとされたり、うまく行きませんでした。

そこで、T様に最適な治療法はないか、探し始めました。

そんな中、堀江課長に相談した所、紹介して下さった治療法が「コウノメソッド」、そして座間先生でした。

「コウノメソッド」とは

名古屋フォレストクリニック院長、河野和彦先生により構築された認知症診断・治療マニュアルであり、認知症の7割は改善させる事が出来る、河野先生により体系化された実践的認知症治療法です。

内容としては

① 治療優先主義 診断に固執する事なく、患者の症状を改善させる

② 介護者保護主義 介護者を楽にさせる処方をする

③ 家庭天秤法 各薬剤の上限を設定

薬の用量は介護者が設定(医師だけの力での確な薬の種類や量を決定するのは不可能な為)過鎮静(嗜眠・食欲低下・体幹傾斜等)が見られたら薬を減量

④ キャラクター分類に基づく処方 認知症の病型ではなく、現在の患者の症状に応じ処方を行う。鉄則として易怒・幻覚・徘徊・暴力といった陽性症状を抑制系薬剤で鎮静化してから記憶障害・見当識障害といった中核症状に対する中核薬を併用する。

⑤ 薬剤以外のサプリメントの活用

⑥ 各認知症病型に適した薬剤の選択(ただし、これに「絶対的」な処方セットは存在しない)

例として レビーセット リバスタッチ+抑肝散+メネシット

ピックセット ウインタミン+フェルガンド または フェルガンド単体

変性疾患セット リバスタッチ+ニューフェルガード LA

といったものです。

「コウノメソッド」を実践しているクリニックのひとつが「ざまクリニック」です。ここの院長、座間先生は河野先生の弟子といってもよい方で、コウノメソッドに造詣が深く、多くの認知症の方の治療に実績を持っている先生です。早速受診の連絡・予約を取り、平成25年7月、埼玉県所沢のザマクリニックにご家族と共に受診に赴きました。片道約一時間半。ちょっとした小旅行、ドライブです。そうしてウインタミン錠12.5mgの処方を受けました。これは緊張や不安を和らげる薬です。これをまず、朝食・昼食後に半錠ずつの内服を始め、日々の様子の細かな変化を観察し、記録に残し、何か変化があれば座間先生に報告・連絡を取る事としました。その後も数週間毎に受診を行い、ウインタミン錠の内服量を少しずつ増やし、日々の状態を観察する事としました。

日々の変化

変化はすぐに表れました。K病院に透析に行かれ、帰ってくると自ら送迎の車から降り、早足でスム

ーズに施設内に入っていかれたり、車の中の物を弄ったり異食されるので装着しているミトンが今までであれば涎や噛み跡があったのが全く噛んだ形跡がなかったり。7月の終わりには、今まで塗り絵を T 様の前にお出しし、ペンを持って頂いても、ペンを齧ってしまったり、色を塗る場所、種類を職員が選ばないと手が動かなかったのが、名前の欄をじっと見つめ、自らカタカナで名前を記入して頂けました。これは些細な行動に思われるかもしれませんが、職員一同、全く見た事がない行動で、皆がびっくりしました。

その後も

- ・メモ帳に T 様のお名前を職員が記入し、T 様にペンとメモ帳をお渡しすると、ペンとメモ帳を齧ったりせず、すんなりと御自分の名前を記入しはじめる。
- ・ご主人・息子さん・娘さんの名前を職員がメモ帳に記入すると、横のスペースにそれぞれの名前を記入しはじめる。しかし、娘さんの名前の横にご主人の名前を3回続けて記入
- ・トイレに入られ、今までであればトイレットペーパーを千切り、異食されていたのが、便器に座り、トイレットペーパーを手元で巻き始める。(ただし、ズボン等はそのまま)
- ・ソファに座り、横に座った職員の手をずっと握っている。職員の腕をさする。

といった、今までに見られなかった行動が見られるようになりました。

ある程度目的をもった行動は、今まで T 様に見られなかったもので、「コウノメソッド」の効果に職員一同驚くと共に、「このままいけば、T 様の症状が劇的に改善し、言葉を取り戻す日も近いのでは。」という希望を抱き、T 様の行動、様子を見守りました。

8月に入ると、更に

- ・透析から帰られた後、ミトンを外しているとミトンを引っ張り拒否。T 様にお渡しして様子を見てみると、止め具にヒモを通し、ご自分で止めようとされる。
- ・メモ帳に漢字を書く。
- ・鏡の前に座り、じっと鏡に映った姿を見ながら、顔を左右に動かしながら衣服の襟を直す。口角を上げ、微笑む。職員の声かけに対し、照れた様子で鏡から顔をそむける。
- ・整容の際、眉毛等のカットの際、今までであればハサミを口に入れようと口を開けていたのが、じっとしている。
- ・化粧水を付ける際も動いたり、舐めようとせず、じっとすまし顔で気持ちよさそうにしている。

という行動が見られました。

しかし同時に、

- ・食事の際、お茶を口に含み、じっと一点を見つめ、固まってしまい、口からお茶が流れ出す。
- ・薬を内服して頂こうとすると、口から吐き出す。

といった行動も見られるようになりました。

9月に入り、ウインタミンを朝・夕2錠ずつ内服となりましたが、お茶を飲みながら固まってしまう行動が更に多くなり、食事の際、今までであれば自ら茶碗や箸を手に取り、早いペースで召し上がる

うとするのを職員が介助し、ペースを保って頂くのが、ぼんやりして召し上がろうとしない、といった様子が見られる様になり、ウインタミンを隔日で朝2錠、昼2.5錠と減らし、過鎮静が収まるのを待つ事としました。

#### まとめ

T 様が「言葉」を取り戻すのはまだ先になりそうです。しかし、時に文字を書き、時にわずかですが笑顔を見せて下さり、少しずつですが確かに T 様の状態は変化しています。T 様が言葉を取り戻した時、最初に発する言葉は何なのか。ご主人の名前でしょうか。息子さんの名前でしょうか。娘さんの名前でしょうか。はたまた「ご飯をちょうだい。」でしょうか。グループホームようざん倉賀野の職員一同、楽しみにしています。

## 「エンタティナーな仲間たち」

ケアサポートセンターようざん貝沢

発表者:小林 秀子

私の事業所の自慢は、ズバリ「13人の職員たち」です。

はじめに

私は現在、ケアサポートセンターようざん貝沢の所長として働かせていただいています。皆さんご存知の通り、小規模多機能型居宅介護事業所の業務は、通いあり泊まりあり訪問あり。受診介助あり入院退院介助あり看護師による医療処置あり。認知症ケアありレクリエーションあり。言い換えれば「やろうと思えば何でもできる」多機能施設です。家族の事情による急なサービスの変更、15名定員遵守、ベッドコントロールなどそれはそれは毎日がパズルを組み立てるがごとく面白く、まるでジェットコースターに乗っているようなわくわく感です。私は本当にこの仕事が好きで毎日楽しく働かせて頂いています。

ようざんの理念は「主権在客」それを私たちは「全ては利用者のため家族のために出来ることを精いっぱいしていこう、そして喜んでもらおう」そう解釈しています。けれども所長一人の力だけでは様々な支援を必要とする利用者やその家族を支えていくことはできませんし、急な変更に対応する事もできません。そこには職員一人一人の知恵と、チームとしての結束の固さが必要となります。貝沢の職員は、所長の方針をよく理解し、プロとしての自覚と責任感をもち、頭を使って工夫をし、楽しみながらケアをしています。そしてまるで家族のような仲の良さです。

これから私の自慢の職員をエンタティナーな部分にスポットをあてて紹介します。

介護現場においてリーダーシップを発揮するのは鈴木主任です。ケアマネと介護福祉士の資格を同一年に取得した「切れ者」。パワーと決断力はピカイチです。

レク担当の狩野誠は様々なイベントを企画します。穏やかな中に秘めたる闘志を持っていると信じています。器の大きさを感じさせる飄々としたイメージ。将来性は未知数です。

金子めぐみはなんでもこなす万能選手。物事を大きな視点で見ることの出来る人。元演劇部ならではの演技力と突然の歌のリクエストにも動ずることなく歌いこなす度胸の持ち主。

加部綾は大阪出身の癒し系美人女優。ほんやりとした物言いは利用者に好評。「おばあちゃんの家はどこやったかいな。さよか。ほな行って来るわ」関西弁の赤ずきんちゃんは彼女の代表作となりました。

渡辺美奈子。アンニューイで一見頼りなさそうな風情だが、きっちり仕事のできる女。見えない所でも決して手抜きをしない性格。主役をやりたかったのに悪役に抜擢された「赤ずきんちゃん」ではけだるいオオカミを好演しました。

大工仕事と電気系統はおまかせ。高橋里絵子はまたの名を「高橋工務店」。自前の大工道具はプロはだし。手作りおやつも得意で利用者さんのバースデイケーキから職員のおやつまで作って来てくれます。

山下あき江は、毎月バラエティに富んだメニューを考えて利用者さんと楽しくクッキング。園芸のプロフェッショナルでもあり、四季折々の花を花壇に咲かせてくれます。

優しくて気配り目配りのできる清水千賀子は利用者の異変にいち早く気付いてくれるので助かります。毎年畑仕事に精を出し、沢山の野菜を食卓に乗せてくれます。

小嶋、仁川は今年入職の新人職員です。レクや体操、利用者さんの散歩などに頑張っています。これからの活躍を大いに期待しています。

看護師の塩谷は最も頼りになる存在で、利用者だけでなく職員の面倒まで見てくれる貝沢のお母さんの様な人です。お父さん役ともいえる小林との熟年コンビは、ザ・ピーナツの向こうをはって「ザ・ピスタチオ」を結成し、妖しいデュエットを聞かせます。夢は紅白歌合戦出場です。

小林美沙子は元幼稚園教諭のキャリアを活かし、ピアノ伴奏を担当しています。接遇面に抜きんでいます。優しく穏やかな物腰ですが、芯の強さは半端じゃないとにらんでいます。

貝沢の看板娘、山本瑞紀はフランス人形のような美貌ながら、中身は意外と三枚目。ダンスのふりつけから指導までこなす、明るく親しみやすいムードメーカー。

終わりに

人は誰でも長所と短所をあわせ持っています。苦手なものもあれば得意なものもあります。縁あって同じ事業所となった14人は、得意な事は惜しみなく発揮し、苦手な事はフォローし合って仲良く楽しく仕事をしています。その中で一歩また一歩と成長してきました。なんでも話し合う私たち。泣いたり怒ったり憤慨したり、喜んだり感動したり癒されたり、時には落ち込んだり。けれども毎日が楽しくていつもいつも笑顔の私たちです。このチームワークの良さはどこにも負けない自信があります。いつの日か世代交代の時期となり、ジェットコースターを降りる日が来てもこのメンバーと過ごした日々は私の宝物となるでしょう。ご清聴、ありがとうございました。